

タウンミーティング記録 未来へ向けて 今、ここから

日 時 令和7年2月8日(土) 午前10時～11時30分
場 所 旭会館(苗間旭町会)
参加者 14人



主な意見等

参加者 かすが自治会に所属しており、以前は旭町会にも所属していたが現在は抜けている。昨年のタウンミーティングで自治会を町会にできないか相談した際、300世帯程度ないと町会になれないと聞いた。その後、要件等について検討された経過はあるか。

町会に加入していた際は、自治会費をとりながら、町会費としても1人500円払っていたが、回覧等が町会からきていた程度であった。市の担当課へも町会として登録できないか聞きに行ったが世帯数が少ないのでできないと言われた。市としては町会が増えると面倒なのか。

自治会費の徴収を行う時期に加入世帯から「自治会費を下げしてほしい」といった要望の手紙があった。町会は補助金があるため町会費が安いが、自治会は補助金がないため、自治会費が高くなってしまう。また、最近新築が建ち、子育て世帯も住み始めているが、餅つきなどイベントをやるにも費用がかかるため、なかなか参加していただかず、自治会の加入促進にもつながらない。

市長 現状、昨年度から進捗はない状況である。同様の状況はほかでも起きている。町会は行政連絡区から移行したものであるが、旧大井エリアは町会の下に住宅自治会があり、そちらが活発に動いていた背景がある。当初は複数の住宅自治会が町会に加入し運営されていたが、人

が入れ替わるうちに町会費と自治会費2重に払うことに負担を感じたり、生活環境の変化から役が回ってくることに抵抗感を抱いたりする家庭が増えてきたように思う。市には自治組織連合会があり、そこで一緒に様々な課題を話あっているが、加入世帯が少ないという話は多く上がっており、旧大井エリアでは自治会ごと抜けていくというケースも聞いている。また、いくつかの住宅自治会で町会が構成されているところでは、毎年順番で住宅自治会から会長を選出することとしているが、会長を出すことが難しい住宅自治会は、町会から抜けるといった事例もあると聞いている。

市としては町会の窓口が増えると、職員が減っている中で効率的に進めにくいといった課題はある。また、有事の際に確認する窓口も増えることになる。

大型の集合住宅に関しては、管理組合に入っているため自治組織に入らなくていいという認識もある。しかし、東日本大震災の際にマンション入居者は危機感を抱き、自治組織にできないか多くの管理組合から問い合わせをいただいた。そこで300世帯を目安として示させていただき、1つのマンションで1町会作れているところもある。

町会費も各組織でまちまちになっていることは把握している。住宅自治会の在り方や町会との関連性について、自治組織であるためあまり市が介入しすぎることは難しいが、いま自治組織連合会でも課題として認識し、動き始めているところである。地域の繋がりは重要であるので、自治組織の課題については改善したいと考えている。

参加者 　　かすが自治会へ市からの情報はほとんどきていない。赤い羽根募金や防災訓練の案内のみである。三陽苗間も同じ状況であり、市の情報は自治会長が直接聞きに行っている。

自治会は近隣のエリアで構成されているから顔見知りが多く、町会よりも関係性が築きやすいと感じている。

参加者 　　支部社協でふれあいサロンを実施しているが、そこにはそれぞれの自治会の方も参加されている。

民生委員は町会から2名出しており、それぞれの自治会もフォローしている。協働推進課へ町会に入っていない人にも情報提供が必要なものについては会長へ言ってくれれば対応すると伝えている。しかし、1年間でそういった依頼は1件もない。

市長 　　町会全体としてイベントが減ってきていることもあり、入会の意義

を感じられないという意見も聞いている。市としては本来、町会加入の有無にかかわらず、情報はまんべんなく伝えないといけないと考えており、今の状況は改善しないといけないと考えている。

先日若い方がタウンミーティングに参加しており、元々自分は自治組織と距離を置いていたと話していた。しかし、被災地へボランティアで参加したことで、現場では公的機関の職員ではなく地域の方が力を合わせてやっている姿を目の当たりにした。そこで、日頃から地域と関わりを持つことは大事だと感じたとのことであった。そのため、行政から加入を促してほしいとの意見をいただき、非常にうれしい意見であった。

そういった経緯もあり、市長として積極的に自治組織の課題解決に関わっていこうと感じ、自治組織連合会の役員へ話をした。いくつかの住宅自治会で町会を新たに組織するのがいいのか、世帯数を見直すのがいいのかなど検証し、少しでも早く改善したいと考えている。昨年聞いた時から進展がなく申し訳ないが、まず、市からの情報提供に関しては町会と連携して住宅自治会に所属している方へも届くよう、週明けから早急に取り組んでいく。補助についても検討を進めていく。

参加者 役を務めることについても、10年に1回程度で1年の任期である。こどもが増えていることもあり、地域のつながりや協力体制を築くために理解を得たいと感じる。

市長 昔と同じようにやるのは難しいと認識しており、今の時代にあわせた形で改善していきたいと考えている。

自治組織も高齢化が進み、たちいかなくなることも考えられるので、若者の力で解決していきたいと考えている。

市としてもハード面を整備してきたが、これからはソフト面を強化し、地域の課題を解決したいと改めて感じた。

参加者 昨年度市の補助で街灯をLEDに変えてもらったが、修理が必要な状況になったので道路課へ連絡した。1週間程度かかると聞いていたが、修理されなかったため再度連絡をすると相談記録が残されていなかった。再度状況を伝えて修理してもらおうこととしたが、そこで場所によって管理の主体が異なることを把握した。

町会管理で補助があれば変えやすいが、私道の寄付採納が出来ていない部分については、負担が大きくなっている。また、道路の補修に

についても寄附採納できない私道については負担が大きい。街灯くらいは対応していただきたいと感じている。

市長 1 回目の相談で記録に不備があった点については、大変申し訳ない。LED については、一部製造段階で不具合があり、製造が同時期だったものについて、一斉に点滅しはじめた。そこで全体的に改善は図っていたところである。

私道の寄付採納についても、4 m 幅員をなかなか取れないところもあることは理解しているが、法律の制限で難しい部分である。一方で、固定資産税については公衆用道路として非課税としているところである。

参加者 住人以外にも通り抜けが出来る準公道的な箇所については配慮を考えていただきたい。

市長 法律や制度上変えられないものについては、それによって生じる負担を少しでも軽減したいという気持ちでいる。

参加者 (会長) 住宅自治会に入られている方が町会に入っただけであればありがたい。補助金も町会に入っているが、自治会に配分はできていない。今回のタウンミーティングについては町会にしか連絡は来ていないが、自治会にも参加していただきたく、回覧を持参している。

市長 町会単位で動いていただけると市としてもありがたい。加入について課題はあると思うが、一緒になれる方法を見出せないかと思う。コロナ禍で中止になった事業について、役員が変わり引き継いでおらず再開できないといった話も聞いている。次の若い世代に引き継いでいくためにも、早く課題を改善していかないといけないと感じている。実際、災害などあった地域では再構築が進められている。

参加者 1 点目に、旧大井村役場の入口の扉が故障し、閉まらない状態になっている。そのため、開館中もドアに内カギをしめており、来館者が来ると開けている。早く改修をしたほうが良いのではないか。

2 点目に学校の門扉が解放されている。住民が通り抜けるために開いているものとするが、安全性を考えたら閉めておくべきではないか。

市長 旧大井村役場の扉については確認する。

学校について、学校は開かれているものと言った意見もあり、対策としては入校者を把握できるよう防犯カメラを設置している。しかし、近道を目的に開放されているとしたら、確かに安全性を考えたら

検討していく必要があるかを感じる。不審者対策を含めて何を優先すべきか、教育委員会とも協議をしていく。

参加者 15年くらい前に、2つの開発行為があり100mくらいの道路の区間に排水溝が無く、雨が降ると川のようにになってしまう。L字溝はあるが排水溝が無い。

市長 市の担当で状況は把握している。